

白い森小国から

山形県の南西部にある小さい町、小国町人口約9千人。冬季は日本海側から吹き付ける季節風の影響で、町の中心部でも積雪が2mを超えることがある。そんな小さい田舎町でジムニー専門店 K-PRODUCTS を営んでいる代表の今(コン)が、今からジムニーの話題を中心に様々な出来事を誌面で採り上げて行きたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

文/今 修
写真/ K-PRODUCTS

西置賜郡
小国町

大震災からの復興を目指して！ 全てはそこから始まった

ジムニーの話題と言っても沢山あり過ぎて何を採り上げれば良いのか迷う。なんせここ10年以上は24時間365日ジムニーに携わって生きているから、逆にジムニー以外の出来事が起きると新鮮であったりする。

そんな中でも5月15日に仙台の丸森町になる「4X4 フィールド 4 駆村」で開催された「TRIAL THE CLASSICS 2011」は本当に感動した。この大会が開催されるに至るまでは様々なドラマがあったのです。

3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生。K-PRO オープン当初から仙台・福島・新潟と近県の方々には毎週のように店に買い物や遊びに来て頂いて、勿論、今でもそうですが本当にお世話になっているのです。

だから震災直後、テレビであの悲惨な映像を見た瞬間、現地に行って何か自分でできる事をやらなければならないと思い、すぐに現地のボランティア活動団体と連絡を取ろうとしたのですがボランティア活動受付が立ち上がったのは数日後。しかも電話はつながらず、結局

現地入りできたのが震災から10日後でした。震災直後、千葉のDBレーシング・小野勝重氏から「大丈夫か!」「こっちもヤバイけど何とか大丈夫だ!」と何度か電話やり取りしておりました。

小野氏の話によると東北には沢山仲間がいる、仲間がどんな状況かわからないから、とにかく現地に向かう! そんな気組みらしい。「じゃ一緒に支援物資積んで仙台に向きましょう」という事になり3月22日、小野氏、俺、他K-PRO チーム(ヤス・S 一郎・山物屋親父)3名が仙台入りしました。

ボランティア活動受付に米・ミルク・おむつや毛布などを運び連絡が取れる仲間達数人にガソリンや水・食料を渡し、最後に我々が入れるギリギリの場所のところの知り合いに向かいました。

向かう途中に遺体安置所が何か所もあり、大きい店舗には「店内の商品は全て盗まれましたのでなにもありません、入らないで下さい」という張り紙が貼ってあり、まるで違う国に来たかのような様子。道路は大きい段差がいくつもあり車がまともに走れず、そんな時も余震が何度も何度もあり、携帯

電話は緊急地震速報のアラームがキュンキュン鳴っている状態。テレビでは何度も見ましたが実際にその場所に来ると本当に怖くて不安で…。ああいう時に自分の本当の気の弱さってものがでるんですね。不安がいっぱいの状態でようやく到着!

「大丈夫だったか?」そんな問いかけに「なんとか助かった、今は生きていて良かったと思うが、何ヶ月後は死んでいた方が良かったと思うじゃねえ〜かなあ〜」と返って来たあまりの重い言葉にドキッとしました。

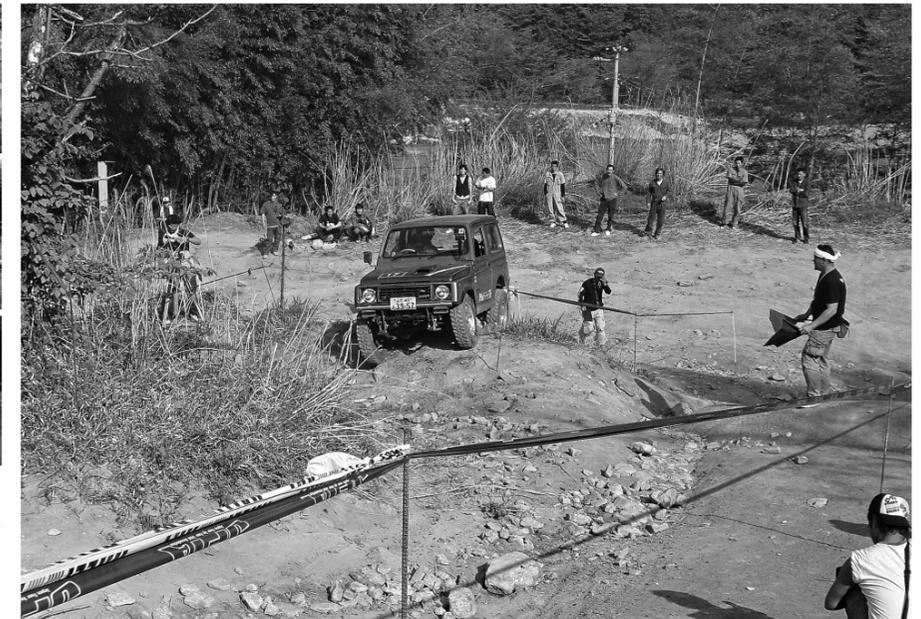
「何か俺らに出来る事はある?」「ここにいる自分達ですら何をすればいいかわかんねーのに…。」その後、言葉はありませんでした。凄く少ない会話でした。かける言葉もないって言うか、傷つき過ぎていて何をどう問いかければいいのかわかりませんでした。

人助けてなんだろう? 自分達に出来る事があれば何でもやってやろう! て意気込んで現地入りしましたが…手を差し伸べるところか励ます事すらできない。何も出来ないむなしさだけを残して現地を後にしました。

仙台から小国まで小野氏と2人、出るの



終盤のSSは急斜面を使ったアップダウンが多く、テクニカルなコースとなっている。腕の見せ所です。



取材スタッフも朝から夕方まで走りまわって、こんなに日焼けしてました。活気溢れるイベントは観ているだけでも楽しく、この笑顔!



左から1位・千葉美伸さん、2位・長田久久さん、3位・磯田貞治さん。1位・千葉さんの走りは歓声が上がると見事でした。



仙台市丸森にある「4×4 フィールド 4 駆村」。東北では最も走りがいのあるオフロードコースだと思います。

はため息ばかり。俺達は本当に人の役になったのだろうか? 結局は現地に迷惑をかけたのだからだろうか? 間違った行動だったのだろうか? 悩みに悩みました。

帰って来てからは自分達で出来る事は何かだろうか? 義援金? やはりお金を送るのが一番いいのか? お金だけ渡せばいいのか? 自分達にしかできない事? そんな事ばかり考えていました。

数日後、小野氏からの電話で「トライアルの大会をチャリティイベントとして仙台でやる!」

小野氏の話によると、千葉に帰ってからもやはり自分にできる事はと自問自答していたらしく、そんな時に東北の仲間から「毎日、毎日、辛い事ばかり、テレビを見ても周りを見ても震災の事ばかり、5分でも10分でも忘れないよ…」そんな言葉を聞いて決めたようです。

昨年から2011年は東北でイベントを考えていた小野氏ですが震災で全てが自粛モード。しかし元気がある人間までもが自粛して

いたら、もっと世の中が暗くなる。そんな答えが見つかったようです。こんな流れで大会が決まったのです。

しかし、大会までは準備期間が少なく本当に出来るのか不安もありましたが、小野氏の呼びかけに賛同した全国のショップさんが14社も集まった結果、「TRIAL THE CLASSICS 2011」が開催できたのです。

「大会当日だけでもイヤな事は忘れてとことん走ってもらいましょう」ってことで7セクションを設定。7セクションの中にはSSあり、ロックあり! 見応え走り応えのあるセクションになりました。

クラシックトライアル 2011 開催 関わった全ての人々に感謝します

大会には青森・岩手・宮城・福島・新潟・茨城・千葉・静岡・などから集まって頂き参加台数41台! 告知も間に合わない状態だったので40台以上はビックリでした。

予想通り大会は夕方まで行われ、選手も

オフィシャルもくたくた状態。閉会式も終わり後片付けをやっていると「今日は楽しかったよ!」

「色々な大会出場しているけどこんなに走ったのは初めて!おなか一杯です(笑)」

「次はいつやるの? シリーズ戦にしてよ」

選手の方やギャラリーの方からこんな言葉を掛けてもらいました。その瞬間、心の底から「やってよかった!」と喜びが込み上げてきました。

3月に仙台にボランティアに行った時は、何も出来ないむなしさだけを残して帰ってきました。正直あの時は行かない方が良かったとさえ思いましたが、今考えるとあの時の思いがなければこの大会もなかったことでしょう。

小野氏の呼びかけで賛同した全国のショップ14社の中に混じってこの大会を開催できたことに本当に感謝しました。また来年「TRIAL THE CLASSICS」開催するとなれば、是非お手伝いさせて頂きたいと思っております。



向かって左から、インプス・関根紳雄氏、インプス2・小野沢共市氏、DBレーシング・小野勝重氏。俺の憧れのオヤジ達です。



商売抜きで主催・協力・協賛頂いた全国のショップさん14社、8媒体。多くの人々の支援に心が熱くなりました。



青森・岩手・秋田・福島・山形・新潟・茨城・千葉・静岡から仙台に集結!参加台数41台で満員御礼となりました。